

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4050380106
法人名	医療法人 福満会
事業所名	グループホーム 八重桜
所在地 (電話番号)	福岡市東区西戸崎5丁目8番54号 (電話) 092 - 603 - 1515

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリクス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年11月20日	評価確定日	平成20年1月12日

【情報提供票より】(平成19年11月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年2月2日				
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人		
職員数	10 人	常勤	8人, 非常勤	2人, 常勤換算	8.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 ~ 69,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)24,000円	
敷金	有(500,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり		1,200円		

(4) 利用者の概要(11月16日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 88.6歳	最低	82歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ふくみつ病院 / やまだ歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム八重桜は、木造平屋造りのユニットである。敷地内には、同一法人が運営する老健施設があり、行事(やクラブ活動)だけでなく、日常的に行き来ができる、なじみの関係が築けている。建物は、老舗和風旅館を思わせるたたずまいで、間接照明の程好い明るさが、古い民芸調の調度品や、アジア製のテーブル・椅子を照らし出し、全体に(安堵感と落ち着いた雰囲気を与えている。窓辺からは、四季折々の樹木を見ることが出来る。例えば、レモン、柚子、ブルーベリー等、見て楽しめる馴染みの木々を始め、種類の異なる8本の桜が計画的に植樹され、出来るだけ永く桜の花を楽しめる配慮がなされている。このような居心地良い工夫は、施設設備だけに止まることはなく、職員の日々の取り組みにも顕著に表れており、入居者との楽しい別れを体験する中で、「今だからこそ出来ることを大切に」という意識を、全職員が共有するに至り、遠方への里帰りや、昔なじみの知人を訪ねる等、入居者一人ひとりの希望の(可能な限りの)実現に努めている。また日常においても、入居者一人ひとりの人物像がより明確となるように努めたアセスメントツールを始め、一人の利用者に複数の職員の眼が行き届くような仕組みを作り上げた観察記録等は、いずれも、より効果的で、精度の高い様式・方法を追求し、改良を重ねられた独自の物で、そこから、職員の意識の高さと誇りを感じる事ができた。さらに特筆すべきは、職員が入居者一人ひとりと交わっている「交換日記」である。そこには、その人物や時節等に合わせた質問が日替わりで設定され、入居者の意向や、趣味、嗜好、生活歴等の継続した把握に努めながらも、一人ひとりと、より深いコミュニケーションを図ろうとする職員の真摯な姿勢がうかがい知ることが出来た。居心地の良さを追求した施設設備と、個性豊かな入居者、そして真摯な姿勢を持った職員が織り成す程良い緊張感と、穏やかな時の流れに起因すると思われる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果をふまえ、「開かれたホーム」としての地域との交流や職員の人権研修の充実など、改善項目に対して積極的に改善に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意義を理解しており、前回の結果を参考にし、改善できることから、積極的に取り組んでいく方針である。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、日程調整が難しく、2、3ヶ月に1回の頻度で開催している。職員は、気軽に参加できる食事会の形式の形をとった家族会を企画したり、隣りの同一法人が運営する老健施設の行事に「運営推進会議」のメンバーが訪れた機会を利用して、情報発信や意見の収集に努めており、運営推進会議の参加への働きかけなどを含め、運営推進会議を活かす取り組みを行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	定期的な報告としては、毎月、家族向けの新聞を作り郵送し、グループホームでの暮らしの情報を家族に伝えている。個々に合わせた報告としては、メールや電話・面会時等、家族の希望や事情に応じた形態で報告しており、家族とのコミュニケーションを図る努力を行っている。家族の意見や意向は、運営推進会議に参加していただいた際に、話していただけるように取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の清掃活動や近隣の小学校や公民館で開催されるイベント(運動会、文化祭、芋掘り等)には参加し、地域との交流を図っている。敷地内に同一法人が運営する老健施設があり、入居者にとっては、その利用者・職員が、隣近所という意識が強い。日常的に行き来ができ、気軽な形での交流が行われる環境づくりに努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念に加え、「共に生きる」ことを主旨とした事業所独自の運営方針をつくりあげている。地域との交流など「地域密着型」の主旨を踏まえた活動を行っているが、地域との関係を示す文言が理念に求められる。		平成18年の法改正により、地域密着型サービスとしての理念の掲示が求められ、「地域密着型」の主旨を踏まえた、事業所の理念(運営方針)の検討を期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事業所内に掲示し、理念の共有と日々の業務の中で意識することに努めている。また、理念実現の為に、年間の事業所の目標及び職員個人の目標を立て、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の清掃活動や近隣の小学校や公民館で開催されるイベント(運動会、文化祭、芋掘り等)には積極的に参加している。敷地内に同一法人が運営する老健施設があり、入居者にとっては、その利用者・職員が、隣近所という意識が強い。日常的に行き来ができ、気軽な形で交流が行なわれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を理解しており、前回の結果を参考にし、改善できるところから、取り組んでいく方針である。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、日程調整が難しく、2、3ヶ月に1回の頻度で開催している。職員は、気軽に参加できる食事会の形式の形をとった家族会を企画したり、隣の同一法人が運営する老健施設の行事に「運営推進会議」のメンバーが訪れた機会を利用して、情報発信や意見の収集に努めており、運営推進会議の参加への働きかけなどを含め、運営推進会議を活かす取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市域包括支援センター担当者とは、日頃より連携を図っている。福岡市主催の韓国からの見学団及び認知症介護実践者研修の受入先を務めている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	現時点では、制度利用者はいないが、日頃から、認知症専門医主催の勉強会に参加したり、他施設との交流や、勉強会を通して、情報の収集や学ぶ機会の確保に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的な報告としては、毎月、家族向けの便り(写真入り)を作り、郵送している。個々に合わせた報告としては、メールや電話・面会時等、家族の希望や事情に応じた形態で報告しており、家族とのコミュニケーションを図る努力を行っている。金銭管理については、管理している分が少額になった時点で連絡している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に提案箱の設置している。家族にアンケートを実施し、意向や希望の把握などを行っている。また、面会時には、家族とのコミュニケーションを図り、意見や意向を把握し、出された意見は会議やミーティングで検討し対応している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が離職の際には、事業所側で改善できないことがないか等、十分に話し合う機会を持ち、最小限に抑える努力を行っている。異動についても、入居者や家族への負担を考慮し、不安がないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	採用については、同性介助の必要性から、男女のバランスは考慮するが、性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。職員の希望に応じて、研修には参加できる体制を築いている。また参加しやすい雰囲気がある。職員のストレスケアは、研修会を計画したり、懇親会を行なう等、積極的に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	外部の研修会参加や伝達内部研修・勉強会を実施している。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	個々の状況・段階に応じた研修を支援している。毎年、年度当初に職員で協議・決定した年間目標をパワーポイントで発表する等、目標の共有に努めている。また、個人でも年間目標を立て、目標達成に向け取り組んでいけるように自己研鑽の仕組みをつくっている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	福岡県高齢者グループホーム協議会に入会し、勉強会等、交流の機会がある。地域の認知症専門医主催の勉強会に参加し、他施設との交流や相互訪問(見学)を行なっている。管理者は、認知症介護実践者研修の講師を務めている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	人との関係づくりを大切に、入居前に職員が訪問したり、環境の変化による不安感を最小限に抑える為に、段階的な利用(例:「事業所に遊びに来てもらう お茶を勧める 食事を勧める」)を計画的に行い、なじみの関係を段階的にすすめながら、安心して入居できるように取り組んでいる。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	理念(運営方針)においても「互いに助け合い生活を共にする」ことを掲げ、入居者の得意分野が活かせる支援を行っている。職員の休憩は、入居者と共に過ごしながら取るようになっており、職員が自然体で入居者との関係を大切にしている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	家族記載の「ライフヒストリー表」(独自)と、アセスメントツール(「独自様式+センター方式」)を活用して、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。入居者全員と行なっている『交換日記』から、職員が一人ひとりの状態に応じた質問方法で、思いや意向の把握に努め、日常的に職員が入居者に寄り添うケアができるように独自の工夫がある。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	家族記載の「ライフヒストリー表」(独自様式)や、アセスメントツール(「独自様式+センター方式」)、審査会資料等を活用して、利用者本位の「介護計画書」作成に努めている。ケアカンファレンスも月に1回実施されている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	コミュニケーションや生活状況等の9項目からなる独自の「観察記録表」を作成し、1人の利用者に複数の職員が観察する仕組みを作り上げ、その詳細な資料をもとに、月に1度の確認(見直し)、3ヶ月に1度のモニタリングを実施する等、現状に即した介護計画の見直しが適時行われている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	通院支援を行なっている。固定した対応ではなく、入居者や家族と相談しながら、できる範囲の対応を検討し支援している。敷地内にある老健施設のクラブ活動やリハビリ、行事等が、希望に応じて利用でき、入居者の楽しみごとや生き甲斐を支援している。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人及び家族希望のかかりつけ医に受診できるように支援している。受診時には、職員が同行している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	現時点は、終末期に向けた方針について、話し合っているところで、結論には至っていない。母体が医療法人であるため、家族にとっては安心感があり、看取りの方針や同意書など書類整備を行うことが期待される。		入居者・家族・医師・医療機関等、関係者の意見を踏まえながら、職員間で十分な話し合いを行い、方針を決定することを期待したい。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	プライバシーの配慮は、職員に言葉かけや対応について、注意するように指導している。個人情報の取り扱いについては、より良い方法を検討している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	業務の都合ではなく、入居者一人ひとりのペースを尊重している。見学者等についても人数制限を設け、雰囲気損なわれないよう努めている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事については、内容・質を検討した結果、敷地内にある老健施設から取り寄せている(購入している)。但し、好みや体調に応じたメニュー変更には対応できるようになっている。準備や後片付けについては、その都度、入居者の意思を確認しながら、一緒に行っている。食事は、入居者と職員が同じテーブルにつき、会話を楽しみながら食事をとり、食事を入居者との関係づくりの場として活かしている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	9時～20時迄の時間帯で、本人の希望に応じて入浴できるように取り組んでいる。朝の入浴を楽しんだり、入浴剤を楽しんでいる入居者もいる。入浴を好まない方には、入浴していただくように声かけなど工夫している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	遠方の里帰りや昔の馴染みの知人を訪れる等、今しか出来ない一人ひとりの希望をできるだけ実現できるように努めている。趣味や得意なこと(例:習字、計算問題練習、畑仕事、ちぎり絵、ぬり絵)を日中活動に取り入れ、楽しみや生き甲斐につながるよう取り組んでいる。畑は腰に負担がかからないように立位姿勢でも作業可能な底上げされた特性の畑を備えている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	日々の外出は声かけを行い、できる限り、散歩等外出する機会を増やすように努めている。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	職員は「鍵をかけないケア」について理解をしており、居室やフロア間は自由に行き来できるようにしている。玄関については、家族からの要望を受け、治安及び入居者の安全を第一に考える観点から、マンション等で見られるオートロック方式を採用している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	消防署立ち合いのもと年に2回、避難訓練を半日かけて実施している。敷地内にある老健施設と連携体制がある。避難訓練は地域との連携が求められ、運営推進会議で地域の協力を依頼するなど取り組みが求められる。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	栄養バランスについては、敷地内にある老健施設の栄養士作成の献立である為、考慮されている。食事量については、毎食後記録している。水分量については、入居者の状態に応じて、1日の量を記録し、足りない方には水分補給を促している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	間接照明が、室内を程よい明るさに保ち、古い民芸調や木の素材を活かしたアジア物で統一された調度品が、全体に落ち着いた雰囲気を与えている。トイレ等のタイルも、入居者がなじみのある時代のデザインを採用し、懐かしい雰囲気づくりに努めている。壁紙も居室によって異なる等、「施設」のように画一化されたデザインではない。窓辺からは、四季折々の樹木を見ることができ、昔なじみの木を中心に、レモン・柚子・ブルーベリー等、見た目も分かり易く、見て楽しめる木々を意図的に植樹している。また種類の異なる桜の木を8本植え、桜の花を長く楽しめる工夫もなされている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	部屋の種類は5種類あり、全てに洗面設備があり、中には流し台やトイレを完備した部屋もある。本人の使い慣れた物や好みの物を持ち込み、その人らしい環境作りがなされており、居心地の良い空間となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			